

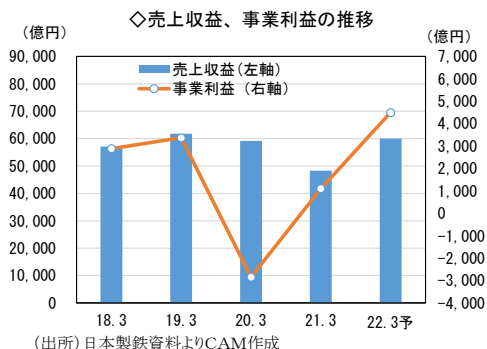
企業ニュース 日本製鉄

(東証1部：5401) <https://www.nipponsteel.com/>

作成者：奥村義弘

総合力世界No.1の鉄鋼メーカーを目指す

1950年設立。1970年、八幡製鐵と富士製鐵が合併し商号を新日本製鐵に変更。2012年、住友金属工業と合併し商号を新日鐵住金に変更。2019年、商号を日本製鐵に変更。製鐵事業を中核にエンジニアリング事業、化学・新素材事業、システムソリューション事業を展開する。今年3月に2021年度から25年度までの中長期経営計画を発表した。国内は設備再編と電磁鋼板など高級鋼シフトを継続する。海外は能力拡張とM&Aでグローバル粗鋼能力1億トン体制を視野におく。また2030年までに2013年比較でCO₂総排出量30%減を目標に掲げる。100%水素直接還元製鐵プロセスや大型電炉の導入などで、2050年のカーボンニュートラルを目指す。



構造改革と需要の回復を受け業績はV字回復

21.3期の連結事業利益は1,100億円（20.3期は連結事業損失2,844億円）。2月の想定より800億円上振れて着地した。固定費や変動費の大幅な削減による損益分岐点の抜本的改善を実現した。また急激な需要の変動に対する迅速な対応により、コロナ禍にあっても前年度を上回る黒字を確保した。下期は実質4年半ぶりに単独営業黒字を回復した。海外ではインドなど需要が伸長する地域で生産能力を高める一方、合理性のない事業からは撤退を進め、収益力を高めた。

22.3期の会社計画は連結事業利益が4,500億円、前期比4倍。RO S（売上収益事業利益率）は7.5%、同5.2ポイントの改善を見込む。21.3期に構築した単独営業利益の黒字構造をベースに、鋼材市況も含め堅調な事業環境下、安定生産で需要を確実に捉える。単独営業利益は統合後最高益並みの2,300億円を目指す。中長期経営計画では、ゼロカーボン・スチールに向けた技術開発力が、競争力・収益力・ブランド力を決める鍵になると見ている。大型電炉での高級鋼の製造、高炉水素還元、100%水素直接還元プロセスなどの技術開発を推進する。またハイグレード電磁鋼板、超ハイテン鋼板など社会的ニーズに対応した商品力を強化する。

【株価動向・投資判断】

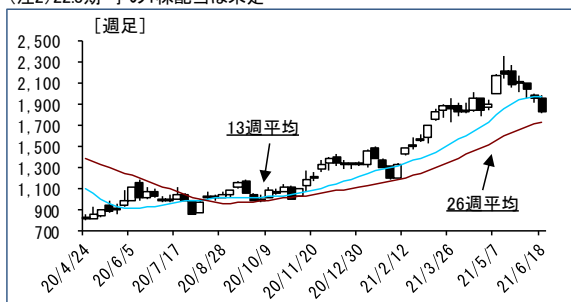
構造改革効果による大幅増益を好感し、株価は大幅上昇した。カーボンニュートラルへの取り組みが、実際に成長性を高めるかが中長期での株価動向の鍵となろう。

<5401 日本製鐵 業績:IFRS>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上収益		事業利益		税引前利益		当期利益		1株利益		1株配当	
	百万円	(伸び率)	百万円	(伸び率)	百万円	(伸び率)	百万円	(伸び率)	円	円		
20.3	5,921,525	(▲4)	▲284,417	(—)	▲423,572	(—)	▲431,513	(—)	▲468.7	10.00		
21.3	4,829,272	(▲18)	110,046	(—)	▲8,656	(—)	▲32,432	(—)	▲35.2	10.00		
22.3 予	6,000,000	(24)	450,000	(309)	(—)	(—)	240,000	(—)	261.0	未定		

(注1) 事業利益とは、売上収益から売上原価、販売費及び一般管理費、並びにその他費用を控除し、持分法による投資利益及びその他収益を加えたもの
(注2) 22.3期・予の1株配当は未定



[主要株価指標]		(売買単位：100株)
株価 (2021/6/18)		1,830.0 円
年初来高値 (高値日)		2,354.5 円 (21/5/11)
同 安値 (安値日)		1,185.0 円 (21/1/28)
予想 P E R (22.3 予)		7.0 倍
1株株主資本 (PBR算出用)		2,997.5 円
P B R		0.61 倍
予想配当利回り		— %
(1株当たり配当金 未定)		
R O E (21.3)		▲1.2 %
発行済み株式数		95,032 万株